

2017 年度

インターンシップ・プログラム

実施報告書

2017 年 12 月



公益
財団
法人

大学コンソーシアム京都

The Consortium of Universities in Kyoto

ごあいさつ

2017年度インターンシップ・プログラムの実施にあたり、ご協力を賜りました企業・団体や大学、その他関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

お蔭をもちまして、今年度は378名の大学生が就業体験をさせていただく機会を与えていただきました。それら修了生が実践から「働く」を考え社会人基礎力を養えたものと認識しております。

受入先、学生の双方がよりメリットを享受できるプログラムとして、発展できるよう皆様より引き続きご理解とご協力を賜りたく、今年度のインターンシップ事業の実施状況を本書にまとめました。ご高覧いただければ幸いに存じます。

プログレスコース 総合コーディネーター

渡邊 博己

京都学園大学 経済経営学部 教授



プログレスコースでは、受入企業・団体様が提供するプロジェクトの最終目標達成のため、学生が主体的に計画を立て、実施をしていきます。とくにその実施過程においては、想定外の様々な困難に遭遇し、そして、計画の甘さ、実行力など様々な問題に気付きます。この気付きにこそ学生達が次代の担い手として成長するきっかけがあると思います。

今年度も魅力的なプロジェクトで学生を受け入れていただきました企業・団体様に厚く御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

ビジネスコース 総合コーディネーター

多田 実

同志社大学 政策学部 教授



おかげさまで、今年度も受講生の成長が実感できるプログラムになりました。インターンシップが就職活動に直結している「就活前哨戦」のような感覚で捉えている学生が増えている昨今ですが、本プログラムでは、当初から一貫して「教育プログラム」であることを念頭に置いており、単なる「社会人体験」ではなく受講後の学生生活を考える一助となることを願っております。今後とも皆様のご支援ご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。

パブリックコース 総合コーディネーター

古川 秀夫

龍谷大学 国際学部 教授



私が担当するNPOクラスの受講生の実習内容は奉仕・ボランティア活動と呼べるものです。中間指導にうかがった一つの施設での実習は小学生の1週間に及ぶキャンプのサポートをするものでした。その活動に長く携わられている方から、子どもたちの成長よりもお手伝いをしてくれる大学生の成長のほうが目覚ましいというお話をお聞きました。少し申しわけないと思いつつも、本プログラムの意義を再確認させていただくことができました。

目 次

第1章 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業の変遷……	1
第2章 2017年度インターンシップ・プログラムの実施内容 ……	2
I. プログラムの概要……	2
II. プログレスコースの実施内容……	3
III. ビジネスコース・パブリックコースの実施内容……	4
IV. プログラムを運用するにあたって……	5
第3章 受入企業・団体のアンケート結果から……	8
第4章 受講生のアンケート結果から……	14
第5章 今後の課題……	27
I. プログレスコースの課題	
II. ビジネスコース・パブリックコースの課題	
<資料>	
資料1. 出願者・受講者数と受入企業・団体数について……	28
資料2. 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター(CO)数の推移……	29
資料3. 受入先登録企業・団体一覧……	30
資料4. プログレスコース講義概要……	32
資料5. プログレスコースプロジェクト別コーディネーター一覧……	33
資料6. ビジネスコース・パブリックコース講義概要……	34
資料7. ビジネスコース・パブリックコースコーディネーター一覧……	35
資料8. 受講生意識調査集計結果……	36

第1章 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業の変遷

公益財団法人 大学コンソーシアム京都（以下「本財団」）が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム（以下「本プログラム」）は、1997年に当時の通商産業省・文部省・労働省が合同で「インターンシップ推進にあたっての基本的な考え方」を取りまとめたことと並行して、本財団に「インターンシップ制度研究会」を発足させたことにはじまる。この研究会における検討の結果、インターンシップは「来るべき新時代に向けての産官学地域等が協働で構築する新たな人材育成を目的とする社会的制度であり、高等教育改革に資するプログラム」であるとして翌1998年度より本格的に始動した。

本プログラムは、開始から一貫して正規の大学教育の一環として明確に位置づけ、産官学地域連携による教育プログラムとして実施してきた。実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的として、単なる就職のためのインターンシップではないことを強調している。これらの目的遂行のため、コーディネーターと事務局の協力による事業推進、受入先への訪問や意見交換会の実施、修生や受入先担当者のゲストスピーカーとしての招聘、ニーズと社会情勢に応じたプログラムの改変、マッチングや事務処理の効率化のための事務システム導入などに努めてきた。

これまでに京都地域にある大学・短期大学（以下「大学」）のすべての学生が参加できるというスケールメリットを活かして、延べ5,300を超える企業や行政機関、非営利組織などの協力のもと、約9,300名の学生が参加し、受入先や大学、受講生、指導するコーディネーターなどの意見を反映しながら、毎年検討を積み重ねてプログラムの改善を図っている。また、2005年度には、大学共同の取り組みとして、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に選定されるなど、社会的にも教育プログラムとして高い評価を得ることができた。

本プログラムの開始以降、インターンシップは全国の多くの大学で独自の取り組みが行われた。インターンシップを実施している大学は、1996年度に17.7%であったが、2013年度には70.7%¹⁾となり、インターンシップは定着したと言える。しかし、近年は就職活動解禁日の変更に伴いインターンシップの実施方法や時期に変化が見られる。そこで、2015年度より「インターンシップ事業企画検討委員会」を発足し、今後の本プログラムのあり方について、また充実を目指し、更なる検討を重ねている。

また、各大学との連携について、2014年度から本プログラムを受講した学生に対し、大学が正課科目として単位認定をする場合、大学と本財団の間でインターンシップ・プログラムの運営に関する委託契約を新たに締結する運用を開始した。

今後も、意欲ある学生がプログラムに参加でき、これまで以上に高い満足度を維持するため、産官学地域における連携をより密にするとともに、本プログラムが受講生だけでなく、受入先にとってもより意義のある取組となるよう、プログラムを推進する。

*出典1) 日本学生支援機構 HP

平成24年度、25年度大学等におけるインターンシップの実施状況に関する調査

http://www.jasso.go.jp/career/internship_chousa.html

第2章 2017年度インターンシップ・プログラムの実施内容

I. プログラムの概要

1. コースの設定

①プログレスコース

受入企業・団体が提示したテーマを実現するプロジェクト型として実施する。インターンシップ期間は、6月から11月の約5か月間で、年1回の実施である。

②ビジネスコース・パブリックコース

企業・行政機関・非営利組織（NPO・NGO等）において就業体験を行う実践型として実施する。インターンシップ期間は、7月中旬～9月中旬の間に10日以上で設定され、年1回の実施である。

2. 受入企業・団体の登録

2017年度は、前年度インターンシップ・プログラムの登録企業・団体を中心に、新規企業の開拓にも注力し、387の企業・団体に対しインターンシップ・プログラムへの登録を依頼した。

受入企業・団体の登録を依頼する際には、教育プログラムとして実施するインターンシップの理解を得るため、案内パンフレットと「受入先ガイドブック」を活用し、実習日数の確保や実習内容の設定について説明を行った。

このような依頼に対し、ビジネスコース・パブリックコースに198、プログレスコースに15、合計213の企業・団体からの登録を得た。このうち、新規に登録のあった企業・団体数は、ビジネスコース・パブリックコースに17、プログレスコースに4の合計21であった。

3. 学生の募集

学生募集にあたっては、本財団に加盟している大学のうち36大学40カ所のキャンパス、そして非加盟大学では要望により7大学にて、学生へ募集ガイドを配布した。同時に、17大学22ヶ所のキャンパスで開催されるインターンシップ説明会においてプレゼンテーションし、広報活動を行った。また、本財団所在地であるキャンパスプラザ京都でも説明会を実施し、学生へ教育プログラムとしてのインターンシップに参加する意義について丁寧に説明を行うとともに、修了生からの報告や個別相談会等での協力を得て、参加を呼びかけた。

●インターンシップ・プログラム事前説明会・相談会

（日 時） 4月22日（土）18：00～21：00 （参加学生数） 325名

（会 場） キャンパスプラザ京都

（内 容） 2017年度インターンシップ・プログラム出願について
修了生（3名）による報告
修了生（11名）・事務局による個別相談会

●プログレスコース説明会・相談会

（日 時） 4月27日（木）18：00～21：00 （参加学生数） 40名

（会 場） キャンパスプラザ京都

（内 容） 2017年度インターンシップ・プログラム出願について
受入先による実習内容説明
修了生（3名）による報告
受入先・修了生（4名）による個別相談会

4. 出願受付と面接

本財団の加盟大学の正規学生および大学院生であれば、学部・学年を問わず出願を可能とした。また、加盟大学の学生が優先されることを出願者が了承した場合に限り、非加盟大学の学生の出願も受け付けた。

出願手続きは、Webエントリーをした者から出願票を受け付け、面接を実施する方法をとった。出願者全員に対して行う面接では、実習を最後までやり遂げ、さらに向上心があるかを確認する質問項目を設け、出願者の志望動機を確認した。

●Webエントリー期間

4月21日（金）～5月9日（火）

●出願・面接日（会場：キャンパスプラザ京都）

5月12日（金） 16：00～18：30、13日（土） 10：00～15：00

5. 選考・マッチング

出願者に対する選考は、受入先が選考を行う場合と、本財団が選考を行う場合の2種類を設定した。選考方法は、受入先企業・団体の登録時点で決定し、学生へ情報開示した。本財団が選考を行う場合には、受入先が提示する受入要件を満たしているか、また志望理由と実習内容が適合しているかを検討し受講許可を与えた。なお、2017年度にエントリーした受入先企業・団体213のうち、受入先による選考を選択したのは58、本財団による選考を選択したのは、155であった。

ただし、プログレスコースは、長期間のプログラムであり、出願者のプロジェクト内容の理解を確認するため、全て受入先による選考とした。

6. 受講手続

受講料徴収手続きについては、2017年度も引き続き、原則コンビニエンスストアでの支払いとした。受講料は、ビジネスコース・パブリックコースで10,000円（加盟大学以外の学生は15,000円）、プログレスコースで15,000円（加盟大学以外の学生は20,000円）とし、保険料・施設利用料・その他講座運営にかかる諸費用に充てた。

II. プログレスコースの実施内容

1. 実施プロジェクト

今年度のプログレスコースにエントリーした15団体が提供する15プロジェクトのうち、10プロジェクトが成立した。10プロジェクトの内容と受講生数は、資料5のとおりである。

2. 講義概要

（1）オリエンテーション・プロジェクトの導入

受講にあたっての注意点につき事務連絡を行い、プロジェクト記録誌を配布した。プロジェクトメンバーの相互理解を深めることを目的としてプロジェクト毎にミーティングを行った。また、プロジェクト・マネジメントの基礎知識について学び、プロジェクト形成の過程で使用するワークシートの説明を受け、作成を行った。

また、外部講師を招き、ビジネスマナーの習得やコミュニケーション能力の向上を目的としたコミュニケーショントレーニング及び今後の活動計画発表や最終成果報告会に向けたプレゼンテーショントレーニングを実施した。

(2) プロジェクトの形成

プロジェクト毎のテーマに応じた目標の設定を行い、目標に向けた体制を明確化し活動計画表を完成させた。プロジェクト形成の終盤では、全受講生合同による講義時間に活動計画の発表を行い、他者からの意見を得て、活動計画の完成度を上げる機会をもった。

(3) プロジェクトの実施

主に受講生の夏期休暇を利用して、活動場所を受入先に移しプロジェクトを実施した。

(4) プロジェクトの振り返り

プロジェクトの評価方法について学び、成果報告に向けた資料の作成と最終成果報告会への準備を行った。また、プログラムの受講を通じた自己の変化を知る自己評価の時間を設け、今後のキャリア形成に向けた振り返りの機会を設けた。

(5) プロジェクト報告・評価

最終受講日には、成果報告会を実施し、約5か月間の活動報告とその成果について発表し、プロジェクト報告書を作成した。

III. ビジネスコース・パブリックコースの実施内容

1. 実習受入について

今年度は、ビジネスコースで122団体に245名、パブリックコースで33団体に96名の学生に対し受講許可を決定した。出願者と受講者数については、資料1のとおりである。

2. 講義概要

(1) 事前学習

実習に向けた目標と仮説設定を業界研究を通して言語化することをねらいとして、1クラス10名～17名で編成されたゼミ形式で実施した。業界研究については、修了生40名と受入先企業・団体のご担当者17名の方のご協力を得て実施し、社会が求めるスキルや心構えなどについても学習する機会とした。

(2) ビジネスマナー研修

ビジネスマナーの基本とコミュニケーション能力の向上及びロジカルシンキングの獲得を目指し、専門講師による研修を実施した。

(3) リスクマネジメント講習

社会で起こりうるトラブルやリスクについて学び、「報・連・相」の重要性について理解を深めることをねらいとして、事前学習の初日講義日と最終講義日の2度に分けて講習を行った。

(4) 事後学習

実習で経験したことを他者に伝え、他者が経験から学んだことを聞くことにより、事前学習で設定した目標の達成や仮説の検証を行い、その後の学習意欲の喚起につながる目標を明確化するねらいをもって実施した。

「実習経験交流会」では全クラスを4グループに分け、その中でクラスごとに発表し、他クラスからのコメントを元にした振り返りも行った。

他クラスの経験からも学び、幅広い知見をもって自己の学習を振り返る機会とした。

IV. プログラムを運用するにあたって

1. 受入先企業・団体との連携

ビジネスコース・パブリックコースにおいては、マッチング後に説明会を実施し、学生を受け入れる際の重要事項を伝達するとともに、担当コーディネーターとの意見交換の時間を設けた。また、学生が実習を行っている間に、コーディネーターが受入先を訪問し、実習状況の確認を行った。プログレスコースにおいては、出願受付の前に説明会を実施し、年間スケジュールや学生を受け入れる際の重要事項を伝達した。

●ビジネスコース・パブリックコース受入先ご担当者説明会

(日 時) 6月8日(木) 17:30～19:30

(会 場) キャンパスプラザ京都

(参加数) 受入先ご担当者 72名

(内 容) 2017年度インターンシップ・プログラムについて
受入先ご担当者による事例報告

受入先様：医療法人社団千春会

株式会社ハートフレンド(総合食品スーパーフレスコ)

京都府庁

受入先ご担当者とコーディネーターとの意見交換

●プログレスコース受入先ご担当者説明会

(日 時) 4月27日(木) 17:00～18:00

(会 場) キャンパスプラザ京都

(参加数) 受入先ご担当者 20名

(内 容) 2017年度のプログラム概要及び年間スケジュールについて

2. 大学・短期大学との連携

学生の所属大学と連携し、プログラムの広報、意見交換、情報の共有化を行った。プログラムの広報としては、大学・短期大学の希望に応じ学生対象のプログラム説明を行った。

また、本プログラムを大学が単位認定する場合、インターンシップ事業に関わる単位委託契約の締結を行った。プログラム終了後、この契約に基づいた科目担当者会議を開催し、コーディネーターが採点した成績を開示するとともに、受入先の実習状況評価、受講生のレポート、講義への出欠状況を確認する機会を設けた。

3. インターンシップ事業企画検討委員会におけるプログラムの検討

プログラムの開始から10年目を迎えるにあたり各種委員会として立ち上げられた「インターンシップ研究会」は、長期的な教育プログラムの方向性について組織的に検討する機関として機能していたが、議題が多岐に渡るため、近年コーディネーター会議との位置づけが不明確になってきた。そこで、本来の目的に沿った機能が発揮できるよう、2015年度より、「インターンシップ事業企画検討委員会」と名称を改め、その役割を整理した。なお、インターンシップ研究会で担っていた教務に関する事項については、各コースのコーディネーター会議で審議することとしている。

2017年度も引き続き、専門委員会としてプログラムに関する検討、審議を行った。

<教育プログラムとしての質的向上に向けた課題>

- 2018 年度受入先開拓の方針について
- 加盟校のインターンシップ出願・広報・実施状況について
- 受入先担当者説明会及びコーディネーターとの意見交換会について

<プログラムの特色を検証し広報する取り組み>

- 本プログラム 20 周年に向けた新規企画等について

インターンシップ事業企画検討委員会構成員

委員長	古川 秀夫	龍谷大学 国際学部 教授
副委員長	多田 実	同志社大学 政策学部 教授
委員	渡邊 博己	京都学園大学 経済経営学部 教授
	三浦 潔	京都文教大学 総合社会学部 教授
	河村 律子	立命館大学 国際関係学部 教授
	谷口 知弘	福知山公立大学 地域経営学部 教授
	辻野皓一郎	大谷大学・大谷大学短期大学部 学生支援部キャリアセンター
	安本祐一郎	京都学園大学 キャリアサポートセンター
	西川 展彦	立命館大学 共通教育課
	代崎 拓也	京都文教大学 就職部就職進路課
	石川 武	三共精機株式会社 代表取締役社長

4. リスクマネジメント

(1) 保険

本財団では、プログラム開始から終了までの期間（実習期間を含む）、全コースの受講生を対象として、普通傷害保険及び個人賠償保険に加入し、不慮の事故やけが等に対応している。2017 年度は、保険金請求事例はなかった。

【傷害保険】 死亡・後遺障害 500 万円／入院保険金日額 4,500 円／通院保険金日額 3,000 円

【賠償責任保険】 てん補限度額 1 億円（自己負担額 0 円）

(2) リスクマネジメント講習

ビジネスコース・パブリックコースにおいては、事前学習にてリスクマネジメント講習を設定し、想定される事例のケーススタディを行った。また、プログレスコースにおいては、初日のオリエンテーションにおいて、「報告・連絡・相談」の重要性とともに、プログラム中に起こりうるリスクへの対応を受講生に伝えた。

(3) 三者協定書の締結

実習が円滑に進められるよう、全受入企業・団体と受講生の所属大学、本財団の三者間で「インターンシップ実習生派遣に関する協定書」を締結した。

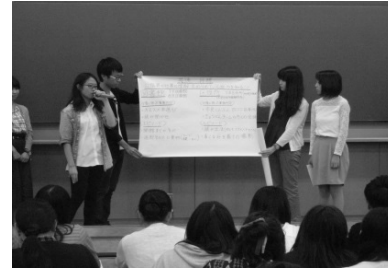
参考：インターンシップ・プログラム 写真

1. インターンシップ説明会



2. ビジネスコース・パブリックコース講義

(左：ビジネスマナー研修、中：ゼミの様子、右：実習経験交流会)

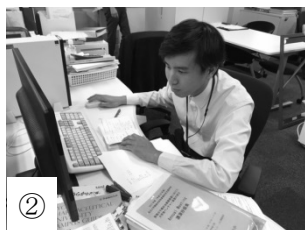


3. プロGRESSコース講義 (左、中：プロジェクトごとの打ち合わせ、右：成果報告会)



4. 受入先での実習の様子

(①京都市 ②京都薬科大学 ③認定 NPO 法人 大阪 NPO センター ④株式会社ワイングロッサリー)



第3章 受入企業・団体のアンケート結果から

今年度のインターンシップ・プログラムに対する満足度は、「非常に満足」「かなり満足」「やや満足」を合わせた数字から算出すると96.6%であった。また、次年度の受入れ予定については、65.8%の受入先が「受入れる予定である」と回答されており、ご負担が多いにもかかわらず、多数の受入先から支持を得たことが窺える。一方、プログラムに対するご意見については改善点として認識し、今後検討していくこととする。

なお、アンケートの質問項目は、コースの内容に応じた項目を設計したため、コースにより異なる項目がある。

I. アンケートの実施要項

1. アンケート実施日

ビジネスコース・パブリックコース 2017年9月中旬～下旬(実習終了後)
プログレスコース 2017年11月初旬～中旬(プロジェクト終了後)

2. 回答数

	企業・団体数	回答数	回答率
ビジネスコース	122	112	91.8%
パブリックコース	33	28	84.8%
プログレスコース	10	9	90.0%
総計	165	149	90.3%

II. アンケートの集計結果

1. 受入れについて

●ご準備いただいた実習内容に対し、インターンシップ生のマッチングについてはいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①満足している	93	83.0%	27	96.4%
②どちらでもない	17	15.2%	1	3.6%
③不満がある	2	1.8%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
総計	112	100.0%	28	100.0%

【①の理由】

男女・大学・学部に適当なバラつきがあったから。
2人とも真面目な学生でした。
積極的で真面目に取り組んでいる。
笑顔を絶やさない人が多く心から現場が楽しいというのが伝わった。
参加目的がしっかりしている
協調性もありとても良かったです。
会社の事業に興味のある実習生でした。
本人たちのニーズがはっきりしており、それに合わせたプログラムを準備できた。
色々なことに興味をもっておられる方で楽しく取り組んでおられたと受けました。

【②③の理由】

働く姿勢は十分でした。コミュニケーションとして声が小さく聞き取れないなどありました。
事前にお願ひした日程と生徒さんが来られ伝えられる日程が違った。
4人も居たので仲間意識が強くなり依存性が強まった。
もっとプログラムにのめりこむような学生がよかった。

●実習内容は主にどのようなものを実施されましたか。(複数回答可)

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①社員の基幹的な業務の一部を体験	55	49.1%	15	53.6%	5	55.6%
②社員の補助的な業務の一部を体験	57	50.9%	12	42.9%	6	66.7%
③社員の通常業務以外の業務	10	8.9%	0	0.0%	3	33.3%
④見学を中心に実施	7	6.3%	3	10.7%	1	11.1%
⑤新任者研修に準ずる座学を中心に実施	14	12.5%	1	3.6%	1	11.1%
⑥その他	5	4.5%	2	7.1%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

【⑥その他の記述欄】

グループワークを中心として金融スキルを向上
 課題を与え、制作を行いプレゼンを行う。
 社員の基幹的な業務の一部を体験を中心に本人が課題設定をし最終日にプレゼンテーションしてもらいました。
 会社経営の立場による総合実習
 社員へのインタビュー等を経てレポート作成
 本人の興味やキャリア支援になる業務を検討

●支給された各種手当の総額をお答えください。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0円	86	76.8%	25	89.3%	6	66.7%
1円～4,999円	9	8.0%	2	7.1%	0	0.0%
5,000円～9,999円	5	4.5%	1	3.6%	0	0.0%
10,000円～19,999円	2	1.8%	0	0.0%	2	22.2%
20,000円以上	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	9	8.0%	0	0.0%	1	11.1%
総計	112	100.0%	28	100.0%	9	100.0%

●次年度のインターンシップ受入れについてお伺いします。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①受入れる予定である	73	65.2%	21	75.0%	4	44.4%
②受入れない	0	0.0%	0	0.0%	1	11.1%
③未定	39	34.8%	7	25.0%	4	44.4%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	112	100.0%	28	100.0%	9	100.0%

2. 受講生について

●参加した学生の実習態度はいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①真剣に取り組んだ	93	83.0%	27	96.4%	5	55.6%
②ふつう	17	15.2%	1	3.6%	3	33.3%
③真剣さを感じられなかった	2	1.8%	0	0.0%	1	11.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	112	100.0%	28	100.0%	9	100.0%

●学生自身に成長があったと思われますか。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①成長があったと感じる	94	83.9%	27	96.4%	7	77.8%
②どちらともいえない	14	12.5%	1	3.6%	1	11.1%
③成長があったと思えない	3	2.7%	0	0.0%	1	11.1%
無回答	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
総計	112	100.0%	28	100.0%	9	100.0%

●前問で「①成長があったと感じる」と答えた方は、どのような成長がありましたか。(複数回答)

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①学習意欲の喚起	31	27.7%	10	35.7%	5	55.6%
②自主性・独創性の育成	33	29.5%	12	42.9%	4	44.4%
③キャリア形成	16	14.3%	5	17.9%	2	22.2%
④問題解決能力の向上	13	11.6%	5	17.9%	4	44.4%
⑤多様な価値観の認識	51	45.5%	15	53.6%	4	44.4%
⑥コミュニケーション能力の向上	51	45.5%	15	53.6%	3	33.3%
⑦プレゼンテーション能力の向上	21	18.8%	4	14.3%	2	22.2%
⑧社会が求める能力やスキルの向上	26	23.2%	11	39.3%	1	11.1%
⑨その他	3	2.7%	1	3.6%	1	11.1%

【⑨その他の記述欄】

考える力の向上

視野の広がり、思考の柔軟性

リーダーとリーダーシップについて

グローバルな政治、経済及び金融知識の向上

経営者目線での価値観

今の自分が社会に出るにあたり必要なこと、不足しているスキル等に自ら気づき改善しようとしていた。

京都市の施設や身の回りにある情報・アンケートへの関心の向上

3. インターンシップ・プログラムについて

●大学コンソーシアム京都が行うインターンシップに参加された一番の理由は何ですか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①大学コンソーシアム京都の加盟大学との強化	18	16.1%	1	3.6%
②指導することにより社員の育成になるから	19	17.0%	2	7.1%
③学生への自社PRのため	10	8.9%	3	10.7%
④採用活動につなげたいから	13	11.6%	2	7.1%
⑤学生から自社に対するアイデアを得るため	7	6.3%	3	10.7%
⑥社会貢献	37	33.0%	13	46.4%
⑦その他	8	7.1%	4	14.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
総計	112	100.0%	28	100.0%

【⑦その他の記述欄】

他社に勧められ興味(インターンシップをすることによる効果・成果等)を持ったためです
 情報収集と活性化
 学生支援のため
 業界の内容を知ってもらう為
 「頑張る学生を応援する！」当社のテーマに基づいて
 大学職員という職種を理解してもらう場を提供するため
 青少年育成として
 毎年、学生の成長、当団体の活動活性化につながっているから
 若い人の役にたつと考えるから
 参加する実習生の質が高い
 学生の就業意欲の向上に寄与し、職員の指導力の向上や職場の活性化に繋がる為

●学生を受入れて、一番のメリットは何ですか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①大学との連携強化	19	17.0%	1	3.6%
②職場活性化	25	22.3%	7	25.0%
③指導する社員の成長	24	21.4%	5	17.9%
④自社のPR・広報・宣伝	4	3.6%	0	0.0%
⑤優秀な学生との出会い	14	12.5%	4	14.3%
⑥新たな企画開発	2	1.8%	0	0.0%
⑦社会貢献	19	17.0%	7	25.0%
⑧その他	5	4.5%	4	14.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
総計	112	100.0%	28	100.0%

【⑧その他の記述欄】

学生対応の業務のため学生の視点での意見が貴重である
 若年層の考え方や価値観に触れる機会
 業界理解の促進
 学生からの情報収集
 若者施設だから若者の視点が得られる。
 大学生の未来を育てられる
 学生の成長、当団体の活性化
 研修生の成長。メリットと言えるかわかりませんが。

●学生を受入れて、一番のデメリットは何ですか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①指導に時間・コストがかかる	70	62.5%	20	71.4%
②事前の準備に時間・コストがかかる	15	13.4%	4	14.3%
③安全への配慮に手間がかかる	4	3.6%	0	0.0%
④情報漏えいが不安である	10	8.9%	0	0.0%
⑤その他	12	10.7%	2	7.1%
無回答	1	0.9%	2	7.1%
総計	112	100.0%	28	100.0%

【⑤その他の記述欄】

業務に必要な対人対応力等が不十分であれば調整等に手間がかかるが、今回はそのようなことはなかった。
あまりデメリットは感じない。

プログラムが設けてある訳ではなく、適切な指導が出来ているのか不安。

社内の理解調整に時間を要すること。

指導者(OJTリーダー)能力のある人材(若手)不足で受入人員に限界がある。

●過去に受け入れた学生が、貴社・貴団体の採用試験に参加されたことはありますか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①ある	30	26.8%	16	57.1%
②ない	63	56.3%	6	21.4%
③新卒採用を行っていない	6	5.4%	2	7.1%
④わからない	13	11.6%	4	14.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
総計	112	100.0%	28	100.0%

●前問で「①ある」と答えた方にお伺いします。

過去に受け入れた学生を、貴社・貴団体において採用されたことがありますか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①ある	18	60.0%	9	56.3%
②ない	5	16.7%	2	12.5%
③採用には至らなかったが応募していた	7	23.3%	2	12.5%
無回答	0	0.0%	3	18.8%
総計	30	100.0%	16	100.0%

●大学コンソーシアム京都以外から大学生のインターンシップを受け入れていますか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①はい	76	67.9%	26	92.9%
②いいえ	35	31.3%	2	7.1%
無回答	1	0.9%	0	0.0%
総計	112	100.0%	28	100.0%

●2017年度のインターンシップ・プログラム全体についてどの程度満足されていますか。

	ビジネス		パブリック		プログレス	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①非常に満足	42	37.5%	17	60.7%	1	11.1%
②かなり満足	44	39.3%	9	32.1%	3	33.3%
③やや満足	22	19.6%	2	7.1%	4	44.4%
④やや不満	3	2.7%	0	0.0%	1	11.1%
⑤かなり不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑥非常に不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
総計	112	100.0%	28	100.0%	9	100.0%

Ⅲ.ご意見・ご要望について(自由記述欄より抜粋)

本項目については、基本的に原文のまま掲載する。
ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

《満足度の理由について》

ソフトウェア・通信	学生の応募をいただけた為
マスコミ・広告・印刷・出版	毎年優秀な学生さんが来られますが、ご期待にこたえられているのか疑問です。
マスコミ・広告・印刷・出版	何事にも積極的に取り組んでいただきました。
安全・メンテナンス・清掃	実習日誌やレポートで実習生の思いや気持ちがダイレクトに分かって良かった。
医療・福祉	今の学生の考え方や気持ちが知れたので。
官公庁(地方公共団体)	まじめで意欲のある学生さんを紹介してくれたため
官公庁(地方公共団体)	フォローも含めた体制が充実している
官公庁(地方公共団体)	事前レポートや事後交流会、制度等他の団体と比べても進んでいると思う。ただ、受入人数の確定がもう少し早いと有難い。
官公庁(地方公共団体)	初めて担当しましたが、短い期間ですが実習生が成長する姿をみる事ができたため。
官公庁(地方公共団体)	実習に真摯に取り組んでいただいたため
教育(学校・大学等)	実習生を指導することにより、本学の中堅職員のマネジメント研修としても効果を得られているため。
教育(学校・大学等)	人数、各学生の希望業務と当館の準備した業務がマッチングしました。
教育(学校・大学等)	大学職員の仕事内容について理解を深めてもらうことができたから
教育(学校・大学等)	実習生を複数人受入れることができてとより良かった。
金融・証券・保険	弊社側の問題ですが、もう少し準備をして学生さんの興味をひくような部分をクローズアップできたら良かった。
金融・証券・保険	インターンシップを通して優れた学生の母集団形成ができた
金融・証券・保険	3名ともに真面目に実習に取り組んで頂き、他大学の実習生とも協調性を持って過ごして頂きました。
金融・証券・保険	優秀な学生との出会いがあるから。
金融・証券・保険	当社を少しでも知っていただく良い機会となった。
士業(法律・会計事務所)	専門の業務や関心の高い学生を受け入れることができたため。
商社・卸売	人として完成度が高いので弊社も勉強になりました
商社・卸売	当社では12年間やってきて、結果として採用活動や京都での認知度又、業界全体での当社への見方が変わってきたと感じる。
小売・販売・専門店	意欲ある学生さんを受け入れることができ、会社の活性化につながったと思います。
小売・販売・専門店	事前学習・事後学習などを実施されているため、学生が目的や目標をもって意識高く参加してくれている。
小売・販売・専門店	学生視点のアイデアが吸収できるため
人材ビジネス	特に若手社員には良い刺激になったと考える。
非営利組織(NPO・NGO)	優秀な学生が実習生として来てくれたため、非常に指導がやりやすかった。
非営利組織(NPO・NGO)	当方の望んでいるインターン生に出会えたことが第一。
不動産・建築設計	実習生の意欲・関心・態度が優れていたため、実習中雰囲気良く、かつ真剣に取り組めました。

《プログラムの改善点》

その他	事前に学習しておいてもらいたい事の情報共有など
その他	インターンシップ中の学生とコンソーシアムとのやりとりがあればもっと良いと思う。
マスコミ・広告・印刷・出版	有名企業を中心に1日インターンシップ2日インターンシップの導入が増す中、3回生の夏に10日以上インターンシップを実施することについて検討される時期にあるのかもしれないと感じています。
マスコミ・広告・印刷・出版	通勤時間の長い学生さんとのマッチングは気が引けますので、お考え下さい(当社は8:30には出社)
マスコミ・広告・印刷・出版	担当者の日報記入や事後アンケート、報告書等を、もう少し簡易なものにして頂きたい。
医療・福祉	発表会が今年は9/23ということで祝日となっており、参加しにくい。(通常の土曜日ならまだよかったが)
官公庁(地方公共団体)	インターンシップの受入日について、こちらと学生が相談して決めたい。学生さんの都合だけで一方的に日程を決められたケースがある。受入担当課は出来るだけ良い経験となるように事業やイベントがある日等を選んで来ていただく等、より良いインターンシップとなるよう工夫をしているので、そのあたりを考慮していただきたい。
官公庁(地方公共団体)	事前訪問の際に、決まった期間に電話をしなかったり、違う場所に行ってしまった学生もいたようなので、事前学習でしっかり指導をお願いしたいです。
官公庁(地方公共団体)	10日間の受入期間は、当市役所にとっては長いので、7日間程度になればと思います。
教育(学校・大学等)	緊急時、事務局休業日の対応につき、わかりやすく明示して頂きたい。
金融・証券・保険	実施時期、日数、回数を改善する必要がある。
宿泊・レストラン・フードサービス	10日間以上というルールがありますが、もう少し短い期間のものもあるといいのではと思います。
商社・卸売	企業間同士やコンソーシアム事務局や大学の先生方事務局の方々との対話がもっと増えれば良いと思います。
小売・販売・専門店	出来れば事前に日程の調整や、せめてテスト期間などは説明頂きたいです。こちらも、より色々な経験をして頂けるように時期を考え予定しますので。
人材ビジネス	中間指導の日程。もう少し早く来て頂ければ良いと思います。
製造(建設)	企業等での実習終了後の振り返り学習が不十分な様に思う。ひとりひとりのフォローアップができていない。
製造(食品)	会社側が時間を割いて学生と向き合っている事を、真剣に考えて参加してほしい。
製造(半導体・精密機器)	事前訪問時の打合せ内容について、質問事項などを事前に確認した上で訪問していただけると助かります。

第4章 受講生のアンケート結果から

今年度のインターンシップ・プログラムに対する満足度は、「非常に満足」「やや満足」を合わせると全体の78.5%であった。また、成長感については、89.5%の受講生が「成長があったと感じる」と回答した。

概して、受入先企業・団体における就業体験においては満足度も高く成長感にもつながり、体験以外の研修や講義の部分を含んでも、アクティブ・ラーニングによる効果を実感する受講生の意見が多く出された。

なお、アンケートの質問項目は、コースの内容に応じた項目を設計したため、コースにより異なる項目がある。

I. アンケートの実施要項

1. アンケート実施日

ビジネスコース・パブリックコース	2017年9月23日(事後学習日)
プログレスコース	2017年11月11日(最終講義日)

2. 回答数

	回答数
ビジネスコース	232
パブリックコース	91
プログレスコース	31
総計	354

II. アンケートの集計結果

1. 実習について

●あなたが実習をおこなった受入先へのマッチングはいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①大変満足	97	41.8%	50	54.9%
②満足	102	44.0%	32	35.2%
③どちらでもない	21	9.1%	7	7.7%
④不満	10	4.3%	2	2.2%
⑤とても不満	2	0.9%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%

●あなたが体験した実習内容は、主にどのようなものでしたか。(複数回答可)

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①社員の基幹的な業務の一部を体験	97	31.0%	36	33.0%
②社員の補助的な業務の一部を体験	91	29.1%	50	45.9%
③社員の通常業務以外の業務	28	8.9%	10	9.2%
④見学を中心に実施	49	15.7%	6	5.5%
⑤新任者研修に準ずる座学を中心に実施	33	10.5%	4	3.7%
⑥その他	11	3.5%	2	1.8%
無回答	4	1.3%	1	0.9%
総計	313	100.0%	109	100.0%

【その他の記述内容】

アルバイトの業務、アルバイトの補助的な業務
 レポート作成
 企業パンフレットの作成
 業務のほぼ全てを体験
 グループワークや企業交流会、飛び込み営業
 企画立案・実施
 デモンストレーション

●実習の実働日数は何日間でしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
10日未満	8	3.4%	2	2.2%
10日	176	75.9%	37	40.7%
11～15日	35	15.1%	36	39.6%
16～29日	13	5.6%	15	16.5%
30日以上	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	1	1.1%
総計	232	100.0%	91	100.0%

●実習の実働日数についてはいかがでしたか。

※ビジネスコース・パブリックコースを合わせて集計

	①長すぎる	②やや長い	③適当	④やや短い	⑤短すぎる	無回答	総計
10日未満	0	3	5	2	0	0	10
10日	7	51	147	8	0	0	213
11～15日	3	30	35	2	1	0	71
16～29日	9	7	12	0	0	0	28
30日以上	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	1	0	0	0	1
総計	19	91	200	12	1	0	323

2. 受講生自身の変化について

●あなた自身に成長があったと思えますか。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①成長があったと感じる	205	88.4%	82	90.1%	30	96.8%
②どちらともいえない	20	8.6%	9	9.9%	0	0.0%
③成長があったと思えない	6	2.6%	0	0.0%	1	3.2%
無回答	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100.0%

●前問で「成長があったと感じる」と答えた方は、どのような成長がありましたか。(複数回答)

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①学習意欲の喚起	72	31.0%	37	40.7%	12	38.7%
②自主性・独創性の育成	67	28.9%	20	22.0%	14	45.2%
③キャリア形成	43	18.5%	27	29.7%	8	25.8%
④問題解決能力の向上	41	17.7%	11	12.1%	6	19.4%
⑤多様な価値観の認識	110	47.4%	54	59.3%	18	58.1%
⑥コミュニケーション能力の向上	82	35.3%	40	44.0%	14	45.2%
⑦プレゼンテーション能力の向上	36	15.5%	12	13.2%	7	22.6%
⑧社会が求める能力やスキルの向上	52	22.4%	24	26.4%	2	6.5%
⑨その他	9	3.9%	2	2.2%	1	3.2%

【その他の記述内容】

判断力、対応力の向上
 知識が増えた
 苦手なこと得意なことに気づけた
 ステークホルダーの把握
 物事や自分を多角的に見る力
 敬語の使用、基本的な所作(歩き方、立ち方、立ち位置)
 ホテルで、お客様を迎える際の心構え

就活への危機感や対策
課題発見
社会人へのイメージを明確にできた
積極性
不測の事態に対しての切替力

●受入先への就職希望についてはいかがですか。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したい	38	16.4%	32	35.2%	8	25.8%
②やや就職したい	107	46.1%	38	41.8%	11	35.5%
③あまり就職したくない	54	23.3%	13	14.3%	6	19.4%
④就職したくない	29	12.5%	6	6.6%	6	19.4%
無回答	4	1.7%	2	2.2%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100.0%

●受入先と同業種への就職希望についてはいかがですか。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したい	48	20.7%	44	48.4%	9	29.0%
②やや就職したい	111	47.8%	33	36.3%	13	41.9%
③あまり就職したくない	46	19.8%	7	7.7%	6	19.4%
④就職したくない	23	9.9%	7	7.7%	3	9.7%
無回答	4	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100.0%

●就職することに対する意識の変化について

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したいと強く思うようになった	96	41.4%	41	45.1%	20	64.5%
②就職したいと少し思うようになった	79	34.1%	27	29.7%	3	9.7%
③それほど変化はなかった	41	17.7%	20	22.0%	6	19.4%
④就職したくないと少し思うようになった	12	5.2%	3	3.3%	1	3.2%
⑤就職したくないと強く思うようになった	4	1.7%	0	0.0%	1	3.2%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100.0%

●実習前と比較して、実習した受入先の業種・職種のイメージはどうなりましたか。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①良くなった	155	66.8%	78	85.7%	14	45.2%
②変わらない	64	27.6%	11	12.1%	12	38.7%
③悪くなった	13	5.6%	2	2.2%	5	16.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100%

● インターンシップ実習で何を得られましたか。

1) 働くということを実感できた

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	6	2.6%	1	1.1%	0	0.0%
②あまり思わない	13	5.6%	3	3.3%	0	0.0%
③どちらでもない	20	8.6%	5	5.5%	2	6.5%
④思う	109	47.0%	50	54.9%	17	54.8%
⑤とてもそう思う	83	35.8%	32	35.2%	12	38.7%
無回答	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100.0%

2) 受入先について知ることができた

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	3	1.3%	1	1.1%	0	0.0%
②あまり思わない	3	1.3%	1	1.1%	1	3.2%
③どちらでもない	4	1.7%	3	3.3%	1	3.2%
④思う	109	47.0%	38	41.8%	17	54.8%
⑤とてもそう思う	113	48.7%	48	52.7%	12	38.7%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100.0%

3) 自分のスキルが向上した

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	4	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
②あまり思わない	19	8.2%	7	7.7%	1	3.2%
③どちらでもない	55	23.7%	15	16.5%	6	19.4%
④思う	123	53.0%	48	52.7%	21	67.7%
⑤とてもそう思う	31	13.4%	21	23.1%	3	9.7%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100.0%

4) 自分の専門知識が向上した

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	6	2.6%	1	1.1%	1	3.2%
②あまり思わない	19	8.2%	8	8.8%	2	6.5%
③どちらでもない	61	26.3%	25	27.5%	9	29.0%
④思う	114	49.1%	41	45.1%	15	48.4%
⑤とてもそう思う	32	13.8%	16	17.6%	4	12.9%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100.0%

5) 自分の力試しが出来た

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	7	3.0%	1	1.1%	0	0.0%
②あまり思わない	22	9.5%	10	11.0%	0	0.0%
③どちらでもない	46	19.8%	13	14.3%	3	9.7%
④思う	101	43.5%	44	48.4%	16	51.6%
⑤とてもそう思う	56	24.1%	23	25.3%	12	38.7%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100.0%

6) 卒業までの目標設定ができた

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	5	2.2%	3	3.3%	1	3.2%
②あまり思わない	26	11.2%	6	6.6%	2	6.5%
③どちらでもない	62	26.7%	12	13.2%	8	25.8%
④思う	100	43.1%	43	47.3%	14	45.2%
⑤とてもそう思う	37	15.9%	27	29.7%	6	19.4%
無回答	2	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100.0%

7) 受入先に貢献できた

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	12	5.2%	4	4.4%	1	3.2%
②あまり思わない	37	15.9%	10	11.0%	6	19.4%
③どちらでもない	86	37.1%	26	28.6%	6	19.4%
④思う	80	34.5%	43	47.3%	18	58.1%
⑤とてもそう思う	16	6.9%	8	8.8%	0	0.0%
無回答	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100.0%

8) 他大学の学生・教員とのネットワークができた

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	14	6.0%	2	2.2%	0	0.0%
②あまり思わない	28	12.1%	12	13.2%	5	16.1%
③どちらでもない	46	19.8%	20	22.0%	6	19.4%
④思う	97	41.8%	37	40.7%	10	32.3%
⑤とてもそう思う	47	20.3%	20	22.0%	10	32.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100.0%

● 実習を終えた今の自分が社会に出る際に不安だと思うことは何ですか。

1) ビジネスマナーや話し方

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	32	13.8%	8	8.8%	5	16.1%
②やや不安だ	111	47.8%	50	54.9%	16	51.6%
③どちらでもない	28	12.1%	16	17.6%	3	9.7%
④あまり不安ではない	56	24.1%	15	16.5%	6	19.4%
⑤不安でない	4	1.7%	2	2.2%	1	3.2%
無回答	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100.0%

2) 職場の人との人間関係

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	36	15.5%	6	6.6%	5	16.1%
②やや不安だ	80	34.5%	32	35.2%	9	29.0%
③どちらでもない	36	15.5%	27	29.7%	5	16.1%
④あまり不安ではない	68	29.3%	22	24.2%	10	32.3%
⑤不安でない	10	4.3%	4	4.4%	2	6.5%
無回答	2	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100.0%

3) スキルや専門知識

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	42	18.1%	20	22.0%	5	16.1%
②やや不安だ	99	42.7%	44	48.4%	15	48.4%
③どちらでもない	56	24.1%	17	18.7%	8	25.8%
④あまり不安ではない	26	11.2%	10	11.0%	3	9.7%
⑤不安でない	7	3.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	2	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100.0%

4) 体調管理

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	20	8.6%	7	7.7%	1	3.2%
②やや不安だ	43	18.5%	20	22.0%	4	12.9%
③どちらでもない	42	18.1%	24	26.4%	7	22.6%
④あまり不安ではない	70	30.2%	26	28.6%	12	38.7%
⑤不安でない	55	23.7%	14	15.4%	7	22.6%
無回答	2	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100.0%

3. インターンシップ・プログラムについて

●インターンシップ・プログラム全体についてどの程度満足していますか。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①非常に不満	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
②やや不満	3	1.3%	2	2.2%	0	0.0%
③どちらでもない	48	20.7%	16	17.6%	2	6.5%
④やや満足	124	53.4%	39	42.9%	16	51.6%
⑤非常に満足	53	22.8%	33	36.3%	13	41.9%
無回答	3	1.3%	1	1.1%	0	0.0%
総計	232	100.0%	91	100.0%	31	100.0%

Ⅲ. ビジネスコース・パブリックコース「実習経験交流会」について(学生アンケート自由記述欄より)

●発表を聞いての感想

- ・それぞれの職種で経験や学びが違って、面白いと思いました。
- ・様々なインターン先の話が、自分にも共感できる場所があった。
- ・自分とは違う業種の企業などへ行った学生の話聞き、似ている部分や異なる気づきがあり良かったと思う。
- ・行った所は違ったけれど、みんな充実したインターンシップだったことがわかった。
- ・個人でのインターンでは得ることのできない収穫があった。
- ・様々な業種の話聞いて、少し興味を持った仕事があった。
- ・クラスによって体験した事が違ったので新鮮だった。でも反省点は共感できた。
- ・きびしい意見を聞くことができ、勉強になった。
- ・職場経験の重要性を感じた。
- ・たくさんの業務内容があり自分はまだ社会の一部しか経験していないことを知った。
民間企業の業務内容なども知ることができ興味深かった。インターンシップ授業の最後のまとめとして、各ゼミクラスの発表を開催する意義は大きいと実感した。
- ・民間と行政で仕事の質の違いが分かった。
- ・短い作成時間の中、どの班も端的にまとめられているなと感じました。
- ・クラスによって発表のやり方が様々で、もっと工夫して発表できたかと思いました。他のクラスでもコミュニケーションの話が出ており、やはりコミュニケーション能力は大切だと再認識しました。
- ・各クラス違う発表があつて、自分達もこういった風にしておけば良かった。内容も良かったなど、ここにも学ぶことができました。
- ・色々な発表の仕方があるなと感じました。プレゼンをする機会はこれから増えると思うので、良い点を参考にしていきたいです。
- ・各クラス、インターンシップの実習を通して多くの経験を持ち帰って発表できていた。プレゼンテーションで目標となる人がいたので、自分もプレゼンテーション能力を上げていきたい。
- ・発表内容が似通っている部分が多いと感じた。どうすれば独自性を出せるか考えなければならない。
- ・興味のある分野だけをもう少し知りたいので、知る術が何か欲しかった。

●発表時間および準備時間について

- ・ちょうど良いと思います。
- ・短い時間でしたが、その中でミッションを成し遂げる大切さも学ぶことができたと思う。
- ・9/16の予備日があつて良かったと思う。今日だけではとても発表無理だった。
- ・先生が午前中から時間をくださったのでなんとかまとまった形にできたが、他のゼミは短い時間で大変だっただろうと思った。
- ・準備時間というより、ゼミの内での交流がもっと多ければよいと思いました。
- ・発表時間はもう少し短くて良いので、準備時間がもっとあれば良いと感じる。
- ・準備時間が15分しかありませんでした。

- ・事後授業もほとんどレポートの添削ばかりで準備時間も 30 分もありませんでした。実際の発表は自分のクラス以外はみんな模造紙を使っていて、恥ずかしかった。
- ・8 分という限られた時間で様々なインターン先での意見をまとめるのは難しかったです。準備時間はもう少し設けてほしかった。
- ・準備時間をもう少し用意すべきだった。全員にスポットライトが当たるようにして役割分担をクラス内すべきだったと思う。
- ・1 グループの所は 15 分全て使って話せるが、4 グループある所は 3～4 分しかなくて話したいことを全部話せなかった。
- ・私たちに班も他の班も発表時間が延びてしまっていたので、与えられた時間通りに行動できるようになりたい。
- ・発表時間は練習通りにいかなくて残念な結果だった。準備時間は、レジュメを作ったためかなり時間がかかった。

●その他、意見

- ・休憩が長い。
- ・受入先の方々が来てくださって嬉しかったです。
- ・聞けない企業も多くあったので、全員が発表できるようになるともっと良いなと思った。
- ・B～、P～に何分じゃなくて、1 グループ何分にしてほしかった。もう 1 回発表の日をもうけても良かったかなと思いました。
- ・紙で発表していた班はうしろの席では見えづらい所があったので、できるだけ画面で発表できるようにし、後ろの人でも見える工夫が必要であると感じた。
- ・発表する内容が自由すぎたり、コーディネーターによってフォローの差が激しく、ある程度統一すべきだと思います。
- ・PPT を使った発表の方がより学びについて分かりやすく伝えられると思う。
- ・発表の場に立てたものの、発表の機会をつかめなかったのは非常に悔しいと思えた。経験交流会においては消化不良に終わった印象である。
- ・発表方法などの周知が少し足りていないように感じた。ガイドブックにも書いてほしい。
- ・全体での連絡の情報の差があったので、そこを埋めて欲しいと思った。
- ・伝える力の弱さが分かった。「6 分で説明して」と言われたら 6 分でまとめるスキルが皆足りない。
- ・15 分以上発表している班があったので、時間の管理をしてほしい。
- ・学生発表だけでなく、学生同士のより密接な交流があったらうれしいです。色々な経験をされた方々と直接お話ししたいです。
- ・興味がある分野をじっくり聞け、質問もしやすいようなポスターディスカッション形式の方が良かったです。

IV. 意見・感想について(学生アンケート自由記述欄より)

1. ビジネスコース・パブリックコースの自由記述

●全体を通して

- ・参加して良かった。
- ・自分自身を振り返る機会になったので良かったです。
- ・レポートはいらないと思いました。
- ・すごく貴重な経験ができ今後の就職活動に生かされると思う。
- ・基本的なことは学べて、後は自分次第という形だったので本当に為になったと思う。
- ・ただ漫然とインターンに参加するのではなく、目標が見つかり、共に乗り越える仲間に出会えたので嬉しかった。
- ・他大学の人と交流できて、良い刺激をうけました。
- ・「学び」としてのインターンシップだったため、単に行きだけで終わりではなく、実習の前後に経験をよりよいものにすることができたのではないかなと思う。
- ・実習日誌の重要さを感じた。
- ・事前学習から事後学習まで、実習を行うだけで終わらず、実習で学んだことを自分に落とし込むことができて良かった。
- ・良い実習先を用意して頂いたこと、手厚いプログラムを用意して頂いたこと、本当に感謝しています。
- ・事前学習があることで安心してインターン実習に臨むことができました。
- ・同じ職務を目指す人たちと交流できて参考になることが多かった。
- ・自分自身の苦手な部分が明確になり、今後どのように改善するべきなのかがわかるようになったと思います。
- ・あっという間に終わってしまいさみしい気持ちもあるがこれから就活に向けて学んだことを活かしていきたい。
- ・とても良い経験となりました。実習前後の学習会も良かったですし、人脈も広がった。

ゼミクラス・講義

- ・ゼミが最高でした！！
- ・事前学習のマナー講座はためになった。
- ・自主性が大幅に上がり、自分の自信へとつながった。事前にビジネスマナーなど学び準備できることがとても良い。
- ・しっかりとした事前学習・事後学習があり、他のインターンシップよりも良かったです。
- ・講義が充実していて良かった。
- ・ゼミなど他の業種を知れるのは良い。
- ・事前・事後学習が長かった。必要最低限の長さだったのでしょうか。

- ・事後学習が一番自分にとって吸収することがたくさんありました。他の実習先についても様々な面を知ることが出来ました。
- ・実習をただ行うだけでなく情報を整理し、発言機会があり、とても実りのあるものとなりました。
- ・ビジネスマナーに気を配らなければいけないと感じた。バイトと違い成果が求められるので能率的な方法をとらなければいけないと感じた。

実習・受入先

- ・実習内容がとても充実していて、いい経験になりました。
- ・2週間経つのが早く感じた。自分のスキルアップになった。
- ・インターンの内容自体はすごく大変で心折れそうになったことが何度もあったけど、今までにない経験になったから良かったです。
- ・大変だったけど、その分課題もたくさん見つかりました。
- ・このインターンシップに参加できて良かったです。興味のある分野で長時間働くという経験はあまりできないと思います。ありがとうございます。
- ・3週間という期間は長いように感じたが、始まってみればとてもちょうど良かった。
- ・良い体験になった。しかし、やはりインターン生ということで実習内容が思っていたよりも薄く、残念な所もあった。
- ・実習内容が思ったこととは違ったため、今回のプログラムにはあまり満足することができなかった。
- ・実習先検索のサイトの実習内容の中身に不満があります。違う書き方をしていたら今回の実習先は選ばなかったと思います。
- ・宿泊代が出せないなら、事前に自腹と書いておくべき。
- ・宿泊の有無についてもう少し具体的に明記してほしかった。書いていただければ、もう少し受入先を吟味できたと感じています。

要望・不満

- ・企業やコーディネーターなどプログラムの質に差がありすぎると思いました。後輩には勧められないし、同じ授業料を払っているのにこの差はどうかと思います。
- ・参加して意味があるのか分かりません。他の先生ならやりがいとか楽しさとかあったのかなという感じです。不満がありすぎて返金してもらいたいです。
- ・実習先にあまりインターンの内容が伝わっていなかった。どの程度インターン先に伝えているのかまでは知らせて欲しかった。
- ・インターンシップの実習先を決めるときに、実習に行った先輩方の体験談を知るという情報が少なかったのもっと豊富にあれば選択肢が広がり、決めるときに不安などが解消されると思いました。
- ・ゼミ担当の教員による厳しさが違うためやる気の差が違い、私の大学では必須科目で来ているため、他のクラスにも友人がおり、インターンに対する意気込みが変わっている。

- ・ゼミがあまり満足いかず、思うように意見を交わらせることができなかった。ゼミのあり方を変えた方がいいと思った。
- ・参加費が高い。
- ・一度名前と大学名を書いた紙を持って写った写真をぼかしなどもなく Facebook に掲載されていたので、せめて名前などは隠してほしいと思いました。

●事務局について

- ・サポートをしてくれた。
- ・明るく、話しやすい雰囲気を作ってくれてため、良かったと思う。
- ・私が実習日程について困っている時に助けて下さってありがたかった。
- ・電話での質問の対応が良かったです。
- ・自分から伝えなかったのも悪いと思いますが、プログラムの途中で満足度など聞いてもらえたらここまで不満を抱えることは少ないのではないかと思います。
- ・コーディネーターの進捗を把握して、遅いクラスがあるなら注意したりするとかもっと管理して下さい。お金払ってまで参加した意味はありませんでした。
- ・いちいちコンソーシアム京都へ行かなくてはいけないのがとても面倒（家が遠いため）。
- ・コーディネーターの方との連絡が行われていないことがあったので、改善していただきたいです。
- ・基本は問題なかったが、すこし説明不足な部分があるように思う。
- ・コンソーシアムの方々は学生への配慮が感じられ、関わることで良かったです。
- ・事前レポートを提出する際に「頑張って」など声をかけていただいたので、心強かったです。
- ・事前レポート提出では受付の人に激励の言葉を頂きました。
- ・あまり関わってないが、不都合は何もなかった。
- ・月曜日が開いていないため、質問をする際に困った。
- ・あまり関わりを感じなかった。

●コーディネーターについて

- ・とても安心できるコーディネーターであった。
- ・皆のレポートや考えに意見を言ってくださったので様々な発見ができて良かったです。
- ・親身になって相談にのってくれて、ありがたかった。
- ・ゼミ内の雰囲気を良くするため、他のゼミ生との交流の時間などがあり良かったと思う。
- ・適切な指示、指導をされ、大変満足なコーディネーターの先生でした。
- ・もう少しレポートの内容についての指摘が欲しかった。私たち生徒の意見を取り入れてくれませんでした。また、こういう意図でこうした、と伝えても分かってもらえず口論

になることが多く、クラスの雰囲気を陰悪にしてみました。コーディネーターの差を埋めてほしいです。

- ・レポートの書き方についての指導が熱かったです。また、進路についてのいくつかの提案をしていただいて、面倒見のよい先生でした。
- ・自分たちの立場に降りてきて話をしてくださったので良い先生でした。
- ・的確なアドバイスや考えるべきことなど提示してくれた。
- ・事後レポートについての指示をもう少し早く出していただきたかったです。
- ・厳しいことまで言ってもらえて良かった。最近、ここまで言ってくれる人は珍しい。
- ・とても厳しく指導されたが、逆にそれが社会の厳しさを知れたのでよかった。
- ・授業では教えてもらえないプレゼンの仕方について熱心にご指導いただいた。
- ・中間指導を2回来てほしかった。中間指導の際、良いアドバイスを頂いたおかげで記事を書けたので感謝しています。
- ・リスクマネジメント講習の際、他のゼミクラスのコーディネーターの方々が前でお話をされているにも先生がいらっしゃるにもかかわらずスマートフォンを触ったり、パソコン作業をされている方が多くいて驚きました。
- ・大学教授だけでなく、実際に企業で働いていた経験のある先生だったので、お話がとても参考になりました。
- ・ピンチな時には助言をしてくれるので程よく実習を行うことができた。
- ・他のクラスの友人から聞いた事前事後学習の進み方と私のクラスとで異なっていたが、コーディネーターの先生の進め方が自分に合っていたと思う。
- ・事前レポートを添削していただけなかったのが心残りです。
- ・LINE やメールで細やかな指導をしてくださり大変ありがたかった。

2. プログレスコースの自由記述

●全体について

- ・非常にためになった。自分のなりたい職業はもちろん、他の受入先の方々との関わりも持てたことは比較ができてとてもよかった。
- ・多くのことを学び、痛感することができたインターンでした。働くこと、物事に取り組むこと、自分の進みたい道、そういうものがみることができたと思っています。
- ・初めてインターンに参加して、仕事の難しさ、やりがいなどを知り、就活に向けての実感を得る事ができました。
- ・他の大学の人達と接することで、自分の違った考えや意見を交流することによって今まで気づかなかったことに気づくことができ、良い経験になった。
- ・受入先の方々が、何を学ぶために私たちが来ているのかということをあまりご存知なかったもので、あまり深い部分は教えていただけなかったなと感じています。

●講義について

- ・この先どんな業界に就職するとしても必要となるビジネスマナーやコミュニケーションについて学べたことが期待以上でした。
- ・様々な企業がどのような事をしてきたのかというのが成果報告により知ることができ、少しですが実習内容が知れてよかったです。
- ・ワークシートの内容がいまいち理解できなかった。
- ・講義の終了時間が遅い。
- ・講義の内容が専門的で難しい。
- ・毎週の講義の時間が少しおそかったので、もう少し自由があればよかったと思います。

●その他意見・要望

- ・せっかくならもっとコーディネーターの先生方とコミュニケーションをとり、知識を得たかった。事務局とのやり取りの仕方が詳しく説明されず、分からないままだった。
- ・プロジェクト内容をもう少し実習生に任せるようなものであれば、より良くなると思います。
- ・報告会の感想を共有できる時間があればと思う。
- ・受入先のチェック、企業の選定をしっかりとしてほしいです。
- ・プログラム内容が企業の中で共有できていないのは、実習において結果として企業と実習生のすれ違いを生む為、可能な限り周知していただきたいです。

第5章 今後の課題

事業創設時より受講生、受入団体の拡大とプログラム水準の高度化を進めてきたが、インターンシップの定着化に伴い、財団事業としての特色が求められている。2018年度も引き続き、質的充実のため、講義内容も含めたプログラム全体の見直し・改善を、インターンシップ事業企画検討委員会、各コーディネーター会議を中心に進める。

全コース共通課題として、学生の出願数確保、新任を含めたコーディネーター相互の連携強化、それらにおける大学との協力関係の強化、受入先検索システムにおける受入先の登録情報の正確性の確保などを引き続き検討する。また、受入先とコーディネーターとの連携強化や受入先基準の明確化とともに、優れた受入先プログラムを基にした受入先相互の情報交換等によって、各受入先においてさらに質の高い実習プログラムに改善していくことが必要である。

また、大学との委託契約については2014年度より、単位認定を行おうとする大学と財団間においてインターンシップ事業に関わる委託契約の締結を開始した。引き続き、単位認定を行う大学については委託契約を進めるとともに、未だ単位認定を行っていない加盟大学に対して積極的な働きかけを行う。

2015年度に実施した修了生を対象とする調査の結果、インターカレッジゼミとしての魅力やプログレスコースでの成果が特色として挙げられ、財団インターンシップが教育プログラムとして機能していることが一定示された。今後も、修了生に広報活動等で協力を得る「修了生サポーター制度」も大いに活用し、財団インターンシップの魅力と特色を発信していく。

I. プログレスコースの課題

さらなる質的充実を目指し、高い教育効果を得られるようプログラムを検討するとともに、学生の出願数確保の方法について具体的な検討を行う。また、受講生にとってプロジェクト目標の明確化及び円滑なプロジェクト活動が可能となるよう、受入先、コーディネーターとの連携を強化するとともに、プロジェクト・マネジメントに関する講義形式での指導にも重点を置いたカリキュラム編成とする。

II. ビジネスコース・パブリックコースの課題

近年増加する1～2日型や採用直結型のインターンシップとは異なる教育効果の高いプログラムを提供する受入先の確保が課題となっている。既存の登録企業からの紹介による受入先開拓の方法等を検討していくと同時に、各受入先の実習内容及び登録情報の明確化も必要である。

また、各大学へ委嘱するコーディネーターの安定的確保のための仕組みの構築を検討する必要がある。

資料1. 出願者・受講者数と受入れ企業・団体数について

1) コース別 出願者数と登録団体数

コース名	学生			企業・団体		
	出願者数	実習許可者数	修了者数	登録団体数	受入れ団体数	受入れ率
ビジネス	461	245	232	156	122	78.2%
パブリック		96	91	42	33	78.6%
プロGRESS	44	37	31	15	10	66.7%
合計	505	378	354	213	165	77.5%

2) 学年別 出願者数と受講率

学年	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
1年次(回生)	5	1.0%	3	0.8%	60.0%
2年次(回生)	44	8.7%	33	8.7%	75.0%
3年次(回生)	449	88.9%	335	88.6%	74.6%
4年次(回生)	5	1.0%	5	1.3%	100.0%
5年次以上(回生)	1	0.2%	1	0.3%	100.0%
大学院生	1	0.2%	1	0.3%	100.0%
合計	505	100.0%	378	100.0%	74.9%

3) 男女別 出願者数と受講率

	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
男性	255	50.5%	183	48.4%	71.8%
女性	250	49.5%	195	51.6%	78.0%
合計	505	100.0%	378	100.0%	74.9%

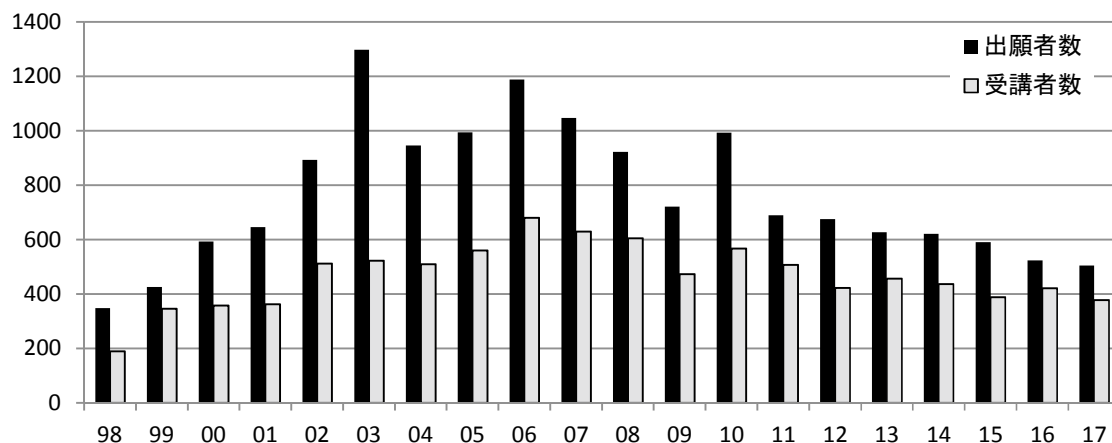
4) 大学別 出願者数

	大学名	出願者数		大学名	出願者数
加盟大学	京都大学	2	加盟大学	京都美術工芸大学	0
	京都教育大学	5		京都文教大学	28
	京都工芸繊維大学	0		京都文教短期大学	0
	京都市立芸術大学	0		京都薬科大学	0
	京都府立大学	8		種智院大学	1
	京都府立医科大学	0		成安造形大学	10
	福知山公立大学	0		同志社大学	31
	池坊短期大学	0		同志社女子大学	21
	大谷大学	11		花園大学	1
	大谷大学短期大学部	0		佛教大学	12
	京都医療科学大学	0		平安女学院大学	0
	京都外国語大学	1		平安女学院大学短期大学部	0
	京都外国語短期大学	0		明治国際医療大学	0
	京都学園大学	18		立命館大学	9
	京都華頂大学	1		龍谷大学	250
	華頂短期大学	0		龍谷大学短期大学部	0
	京都看護大学	0		大阪医科大学	0
	京都経済短期大学	0		京都情報大学院大学	0
	京都光華女子大学	7		放送大学 京都学習センター	0
	京都光華女子大学短期大学部	0	非加盟大学	大阪大学	1
	嵯峨美術大学	0		大阪樟蔭女子大学	1
	嵯峨美術短期大学	1		大阪経済大学	2
	京都産業大学	28		関西大学	2
	京都女子大学	25		関西学院大学	1
	京都精華大学	0		近畿大学	1
	京都西山短期大学	0		奈良県立大学	2
	京都聖母学院短期大学	0		島根大学	1
	京都造形芸術大学	3		信州大学	1
	京都橘大学	18	出願者総数		505
	京都ノートルダム女子大学	2			

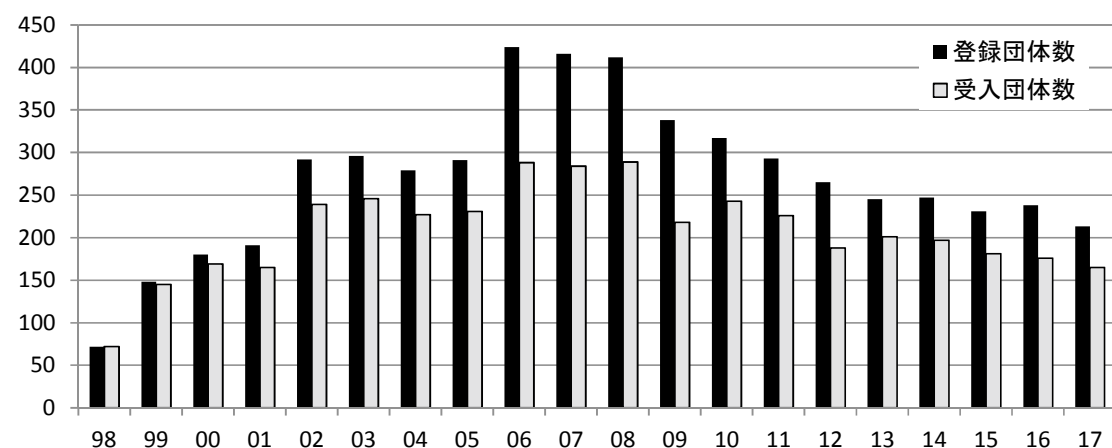
資料2. 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター(CO)数の推移

年度	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17
出願者数	348	426	593	646	893	1298	946	994	1189	1047	923	721	993	690	676	627	621	591	524	505
受講者数	190	346	358	363	512	523	509	560	680	630	605	473	567	507	422	456	437	388	421	378
登録団体数	72	148	180	191	292	296	279	291	424	416	412	338	317	293	265	245	247	231	238	213
受入団体数	72	145	169	165	239	246	227	231	288	284	289	218	243	226	188	201	197	181	176	165
CO人数	9	12	13	16	27	26	30	32	39	40	43	37	37	38	37	35	32	31	33	33

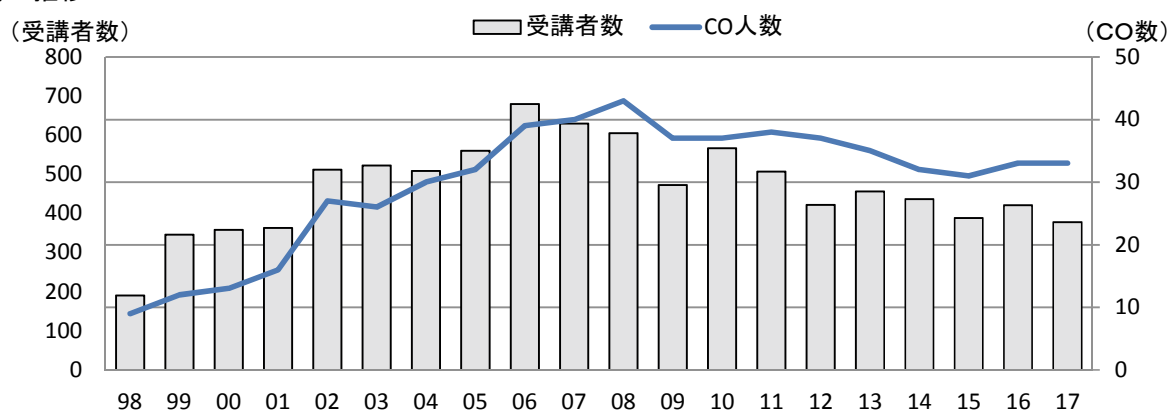
出願者数の推移



参加団体数推移



CO数と受講生推移



資料3. 受入先登録企業・団体一覧

ビジネスコース・パブリックコース

◆製造

ダイイチ株式会社
株式会社加貫ローラ製作所
株式会社キョーテック
株式会社セイワ工業
株式会社 傳來工房
日東精工株式会社
マルホ発條工業株式会社
ムラタ
株式会社 箭木木工所
日東電工株式会社
大和電設工業株式会社
株式会社石田老舗
株式会社老松
株式会社聖護院ハツ橋総本店
株式会社 俵屋吉富
株式会社 西利
ロンドフードサービス株式会社
株式会社カシフジ
金井重要工業株式会社
寺崎電気産業株式会社
パナソニックシステム
ソリューションズジャパン株式会社 関西社
株式会社壬生電機製作所
有限会社共同設計企画
株式会社魁半導体
株式会社積進
株式会社大東技研
株式会社堀場製作所

◆運輸・物流

株式会社塚腰運送
都タクシー株式会社

◆人材ビジネス

株式会社OVO
学生情報センターグループ
株式会社ナジック・アイ・サポート
株式会社キャリアパワー

◆士業(法律・会計事務所)

司法書士法人F&Partners
中央ビジネスグループ
特許業務法人京都国際特許事務所
弁護士法人中村利雄法律事務所

◆小売・販売・専門店

株式会社川勝總本家
株式会社京織 京都さかの館
京都生活協同組合
株式会社くろちく倭美坐
株式会社ジュンク堂書店 京都店
つるやゴルフ
株式会社ハートフレンド
(総合食品スーパーフレスコ)
株式会社花工房
富士ゼロックス京都株式会社
有限会社 豊明 京都デニム
丸善雄松堂株式会社京都支店
株式会社 よーじや
株式会社 レスキュージャパン

◆ソフトウェア・通信

株式会社教育ソフトウェア
協和テクノロジーズ株式会社
株式会社クラウドクリエイティブスタジオ
株式会社クラックスシステム

◆コンサルティング・調査・研究

しあわせ総合研究所グループ
株式会社地域社会研究所
株式会社地域未来研究所

◆マスコミ・広告・印刷・出版

アートム株式会社
株式会社あおぞら印刷
株式会社エトレコミュニケーションズ
株式会社ジェイ・プロジェクト
株式会社関広
株式会社京都通信社
株式会社京都放送
株式会社京都リビング新聞社
株式会社島津アドコム
有限会社ティーエスピー
株式会社図書印刷同朋舎
株式会社ビードリーム
株式会社らくたび
株式会社リーフ・パブリケーションズ

◆ブライダル

株式会社エイジェイクリエーション

◆金融・保険・証券

株式会社葵総合保険
株式会社エスアールエム
SMBC日興証券株式会社
京都信用金庫
京都中央信用金庫
西村証券株式会社

◆建設・不動産

京都駅ビル開発株式会社
株式会社学生ハウジング
株式会社空間デザイン
有限会社一級建築士事務所 ターボ設計
株式会社長栄
株式会社莫設計同人
株式会社フラットエージェンシー
株式会社ローバー都市建築事務所

◆商社・卸売

株式会社佐野
三共精機株式会社
Joyful喜一ホールディングス株式会社
株式会社大黒商会
株式会社ヒトミ

◆医療・福祉

医療法人財団康生会武田病院
社会福祉法人行風会
株式会社ShinSei
社会福祉法人 清和園
京都市久世特別養護老人ホーム
医療法人社団 千春会
社会福祉法人 同胞会 同胞の家
長岡記念財団 老人保健施設
アゼリアガーデン
パナソニック エイジフリー株式会社
洛和会ヘルスケアシステム
社会福祉法人 和楽会
特別養護老人ホームわらく

◆安全・メンテナンス・清掃

株式会社アイアム
京都エレベータ株式会社
株式会社高浄
株式会社 ワタナベ美装

◆宿泊・レストラン

ウェスティン都ホテル京都
株式会社プリンスホテル
グランドプリンスホテル京都
株式会社キャピタル東洋亭本店
京都タワー
(京阪ホテルズ&リゾーツ株式会社)
株式会社国華荘 びわ湖花街道
里湯昔話 雄山荘
株式会社すみや亀峰菴
東横イン京都四条烏丸
株式会社ハトヤ瑞鳳閣
琵琶湖ホテル
(京阪ホテルズ&リゾーツ株式会社)
株式会社ホテルグランヴィア大阪
RRH京都オペレーションズ合同会社
リーガロイヤルホテル京都

◆エンタテイメント

株式会社ビーイング

◆レジャー・アミューズメント

嵐山通船株式会社
株式会社エルムンドトラベル
オーパルオブテックス株式会社
近鉄レジャーサービス株式会社
(志摩スペイン村)
株式会社 ビックスマイル
有限会社丸益西村屋

◆教育(学校・大学等)

大谷大学 大谷大学短期大学部
京都外国語大学 京都外国語短期大学
京都学園大学
国立大学法人京都工芸繊維大学
京都産業大学
京都女子大学
京都精華大学 京都国際マンガミュージアム
京都大学
京都文教大学
京都薬科大学
社会福祉法人 熊千代会 こぐま上野保育園
公益財団法人 大学コンソーシアム京都
同志社女子大学
同志社大学
立命館大学
学校法人龍谷大学

◆官公庁

綾部市役所
宇治市役所
近江八幡市
一般財団法人 大阪教育文化振興財団
亀岡市役所
川西町役場
京田辺市役所
京都市
公益財団法人京都市国際交流協会
京都市野外活動施設 花背山の家
公益財団法人 京都市ユースサービス協会
京都府庁
滋賀県庁
摂津市
豊中市伊丹市クリーンランド
長岡京市役所
東近江市役所
彦根市
福知山市役所
宮津市役所
向日市役所
守山市役所
野洲市役所
栗東市役所
京都府立りい溪少年自然の家

◆その他

京都工業株式会社
京都新聞企画事業株式会社
(京都新聞旅行センター)
サンスイコンサルタント株式会社
株式会社ジイケイ京都
株式会社JTB西日本 京都支店
株式会社ディレクターズ・ユニブ
株式会社富田屋
株式会社乃村工芸社
公益財団法人びわ湖芸術文化財団
株式会社ミル総本社
有限会社テラヲ貨物店
株式会社ユメコム

◆非営利組織<NPO・NGO>

特定非営利活動法人
アントレプレナーシップ開発センター
特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会
特定非営利活動法人気候ネットワーク
公益財団法人
京都市身体障害児者父母の会連合会
特定非営利活動法人 京都藝際交流協会
京都府地球温暖化防止活動推進センター
一般財団法人京都ユースホステル協会
公益財団法人
公害地域再生センター(あおぞら財団)
特定非営利活動法人
子育て支援コミュニティおふいすパワーアップ
特定非営利活動法人
子ども自立の郷ウォームアップスクールここから
特定非営利活動法人
とよなか市民環境会議アジェンダ21
ドーン運営共同体
特定非営利活動法人ピープルアクティブライフ
認定NPO法人びわこ豊穡の郷
特定非営利活動法人結芽

プログレスコース

株式会社インサイトハウス
株式会社インテリジェンスオフィス
認定NPO法人大阪NPOセンター
特定非営利活動法人気候ネットワーク
特定非営利活動法人木野環境
公益財団法人京都市環境保全活動推進協会
京都シネマ
京都府教育委員会
株式会社古裂會 (オークションハウス 古裂會)
特定非営利活動法人子ども自立の郷
ウォームアップスクールここから
株式会社ディアライブ
未来映画社
株式会社山城工芸
株式会社ユメコム
株式会社ウィングロッサリー

資料4. プログレスコース講義概要

日程	時間	全体の 流れ	回数	講義名	講義 形式	内容
6/15 (木)	18：00～ 19：30	プロジェクトの 導入	第1講	オリエンテーション (プログラムの概要・リスクマネジメント) プロジェクト・マネジメントの概要 ーPCMの講義ー	全 受 講 生 合 同	プログラムの概要やプログラムに臨む心 構え等の説明を受ける。 PCM講義で、受入先に確認すべき点につい て、教員からアドバイスを受ける。 プロジェクトに分かれ、実習生、受入 先、コーディネーターがお互いに自己紹 介をする。今後の日程についての確認。 ワークシート①を完成させる。
	19：40～ 21：10		第2講	プロジェクトメンバーの相互理解 (ワークシート①)		
6/22 (木)	18：00～ 19：30		第3講	プロジェクト・マネジメント (ワークシート②、③)	各 プ ロ ジ エ ク ト	各コーディネータ・受入先のもとで、今 後の活動の見通しを持つ。 ワークシート②、③を完成させる。
	19：40～ 21：10		第4講			
6/29 (木)	18：00～ 19：30		第5講	プレゼンテーショントレーニング	全 受 講 生 合 同	プレゼンテーションのポイントや方法等 については、専門講師よりレクチャーを 受ける。
	19：40～ 21：10		第6講	コミュニケーショントレーニング		就業意識の向上、ビジネスマナーの基 本、対人関係の中での コミュニケーション能力等について、専 門講師による講習を受ける。
7/6 (木)	18：00～ 19：30	プロジェクトの 形成	第7講	プロジェクト・マネジメント (テーマに応じて実習や事業のデザイン)	各 プ ロ ジ エ ク ト	プロジェクトを形成する体制を明確化す る。
	19：40～ 21：10		第8講			プロジェクト活動計画表を完成させる。
7/13 (木)	18：00～ 19：30		第9講	プロジェクト・マネジメント (今後の活動の確認、活動計画の発表)	全 受 講 生 合 同	プロジェクト活動計画表の発表。他プロ ジェクトの受講生との意見交換を行い、 プロジェクト活動の完成度を高める。
	19：40～ 21：10		第10講	プロジェクト・マネジメント (他プロジェクトとの意見交換)		
夏休み期間中には、受入れ先ごとにプロジェクトを行います。						
10/5 (木)	18：00～ 19：30	プロジェクトの 振り返り	第11講	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト中間報告)	全 受 講 生 合 同	それぞれのプロジェクトにおける夏期休 暇中の進捗状況を報告しあい、質問や感 想を交換し合い、今後の成果報告会に向 けての準備を行う。
	19：40～ 21：10		第12講	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト評価方法の概要) (ワークシート④)		プロジェクト評価の方法を学び、成果報 告会につなげる。 ワークシート④を完成させる。
10/12 (木)	18：00～ 19：30		第13講	プロジェクト・マネジメント (プレゼンテーション準備①)	各 プ ロ ジ エ ク ト	プロジェクトの実施、プレゼンテーショ ンの準備等を行う。
	19：40～ 21：10		第14講	プロジェクト・マネジメント (プレゼンテーション準備②)		
10/26 (木)	18：00～ 19：30		第15講	プロジェクト・マネジメント (自己評価：プログラム受講を通しての自己 の変化を振り返る)	全 受 講 生 合 同	プログラム受講を通しての、自己の変化 を振り返る。
	19：40～ 21：10		第16講	プロジェクト・マネジメント (プレゼンテーション準備③)	各 プ ロ ジ エ ク ト	プレゼンテーションの準備を行う。
11/11 (土)	10:40～ 12:10	プロジェクト報告・評価	第17講	成果報告会・修了式	全 受 講 生 合 同	約5ヶ月にわたるプログラムの総括とし て、プロジェクトごとに活動報告を行 う。全体で、それぞれのプロジェクトの 到達点について相互評価を行い、今後の 学生生活の目標を明らかにする。
	13:00～ 14:30		第18講			
	14:40～ 16:10		第19講			
	16:20～ 17:50		第20講			
	18:00 ～19:00		懇 親 会			受入先・コーディネーター・実習生の交 流を深める。

資料5. プログレスコースプロジェクト別コーディネーター一覧

受入先	プロジェクト概要	受講生数 (実習許可)	コーディネーター
京都府教育委員会	【教員養成サポートセミナー】 学校現場において、試行錯誤しながら児童・生徒と教師という立場で向き合った。演習を通して理論と実践を結びつけ、教員になるために必要な実践的指導力を身に付けた。	14	○谷口 知弘 (福知山公立大学)
京都シネマ	【ぴあフィルムフェスティバル(PFF)運営サポート】 ぴあフィルムフェスティバル(PFF)に向け、映画鑑賞体験や外部施設での上映会運営体験、PFF入選作品の鑑賞と宣伝など様々な業務体験を積み、PFFへの入場者数増加を目指した。	7	大西 孝之 (龍谷大学)
株式会社デアライブ	【京都の魅力を発信するWebサイトのコンテンツ企画】 留学生スタディ京都ネットワークが運営する“STUDY KYOTO”及び受入先が制作・運用する“Traveler's Voice of Kyoto”で京都の魅力を発信する企画を行うプロジェクト。WEBマガジンの取材・執筆や、海外の方向けのコンテンツを取材・製作した。	2	
株式会社ユメコム	【シニアサポートデスクのサービス事業くつくる・周知する・売る】 シニアサポートデスクのサービス事業の目的や社会的必要性を理解した上で、事業を作る(企画)、周知する(広報)、案内する(営業)ことを目指した。	1	吉田 咲子 (京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部)
認定NPO法人大阪NPOセンター	【「ソーシャル」をテーマにしたWEBマガジン作成】 「社会起業家」にインタビューし、社会起業の背景や魅力を記事や動画にまとめ、WEBマガジンとして社会へ発信するプロジェクト。動画と記事の作成にあたっては、取材や動画の文字起こし、記事執筆などを行った。	1	
特定非営利活動法人子ども自立の郷ウォームアップスクールここから	【つながり、紡ぐ希望の“ここなつ祭2017”in 余呉】 地域の方々とここからの職員、寄宿生が一丸となって行う、開催6回目となる「ここなつ祭」。その企画準備から開催までをインターンシップ生が中心となって行った。	2	申 昌浩 (京都精華大学)
未来映画社	【面白い映画を作って映画館で上映しようプロジェクト】 撮影・音声などの技術部門、宣伝・広報のスタッフとして、映画の追加撮影から上映会の開催、短編映画の制作に向けた活動など、映像現場での一連の実務を実践的に経験した。	2	◎渡邊 博己 (京都学園大学)
公益財団法人京都市環境保全活動推進協会	【地球環境京都会議(KYOTO+20)を大学生から発信！！】 12月10日に開催予定の「地球環境京都会議2017(KYOTO+20)」に向け、大学生を中心とした若者のエコに対する“やる気スイッチ”を押すプロジェクト。環境意識に関するアンケートを通し、環境について考えてもらうこと、また、アンケート結果をまとめたパネルやモザイクアートによる啓発パネルを作成し、展示することを目標とした。	2	西村 雅信 (京都工芸繊維大学)
株式会社ワイングロッサリー	【学生向けワインセミナー 企画、開催】 ワインショップの仕事を通じてワインを学びながら、学生向けワインセミナーの内容を組み立て、セミナーの企画・実行をするプロジェクト。社員のサポートの元、セミナーの企画、集客、開催を全て行った。	3	桜沢 隆哉 (京都女子大学)
オークション客層拡大プロジェクト	【オークション客層拡大プロジェクト】 若い世代に古美術やオークションへの興味を持ってもらい、オークションへの集客を伸ばすことを目指した。若者へのアンケート実施を中心に、現在の課題などを探った。	3	山本 建太郎 (京都工芸繊維大学)

◎:総合コーディネーター ○:チーフコーディネーター

資料6. ビジネスコース・パブリックコース講義概要

日程	時間	回数	講義名	講義形式	内容
6/17(土)	10:00～11:00	第1講	オリエンテーション①： プログラム参加にあたって リスクマネジメント講習①： 事前学習に向けての心構え	全受講 生合同	プログラムの概要や、プログラムに臨む心構え等を説明 します。
	11:20～12:50	第2講	クラスの相互理解	ゼミ	クラスに分かれ、担当教員を中心として、クラスメンバー の紹介をしあいます。
	13:50～15:20	第3講	実習に向けた目標と仮説設定		グループディスカッションを中心として、実習目標と仮説 設定のための意見交換を行います。
	15:30～16:30	第4講	コミュニケーショントレーニング		就業意識の向上、ビジネスマナーの基本、対人関係の中 でのコミュニケーション能力等について、専門講師を 招いて講習します。
	16:40～18:10	第5講			
7/1(土)	10:00～11:30	第6講	業界と社会に対する学習①	ゼミ	受入先担当者や修了生のゲストスピーカーによるお話をも とに受入れ先について探求し、事前学習レポート作成 のポイントを学び、内容を深めます。
	11:40～12:40	第7講	業界と社会に対する学習②		
	13:40～15:10	第8講	スキルアップトレーニング	ゼミ	ロジカルシンキングの獲得を目指し、専門講師を招いて 実践的理論を学びます。
	15:20～16:50	第9講			
7/8(土)	10:00～11:30	第10講	実習に向けた目標と仮説設定①	ゼミ	グループディスカッションを通じ、事前学習の総まとめと して、実習目的を明確にします。また、事前学習レポート の書き方のポイントを学びます。
	12:30～14:00	第11講	実習に向けた目標と仮説設定②	ゼミ	グループディスカッションを通じ、事前学習の総まとめと して、実習目的を明確にします。また、事前学習レポート の書き方のポイントを学びます。
	14:10～15:40	第12講	実習に向けた目標と仮説設定③	ゼミ	事前学習レポートの内容をより深めます。
	16:00～17:30	第13講	リスクマネジメント講習②： 実習・事後学習に向けての心構え オリエンテーション②：実習・事後学 習に向けての事務連絡	全受講 生合同	実習中に留意しなくてはならないリスクについて学びま す。 実習にあたっての準備、確認・注意事項を説明します。
実習の実施（原則として7月中旬～9月中旬の期間で実施されます。）					
9/16(土)	9:00～10:30	補講	※クラスによって実施	ゼミ	
	10:50～12:20				
9/23(土)	10:00～11:00	第14講	実習経験の共有①	ゼミ	実習において得たことや感じた課題等について相互に 発表を行い、個々の体験をクラスで共有します。それら に基づくディスカッションを通して仮説の検証を行い、レ ポートの内容を深めます。
	11:10～12:10	第15講	実習経験の共有②		
	13:10～14:40	第16講	実習経験の共有③	ゼミ	実習経験交流会に向けて、クラスとしての経験共有をま とめます。
	15:00～16:30	第17講	実習経験交流会	ゼミ合同	実習を通して学んだことをゼミごとに発表し、他のゼミの 発表を聞くことで、考え方や伝え方などを学び、事後学 習レポートの内容に反映させます。
	16:40～17:40	第18講	実習経験の振り返り 全体講評 修了式		他のゼミからのコメントから各クラスで振り返りを行った 後、全体講評による振り返りと修了証を授与します。

資料7. ビジネスコース・パブリックコースコーディネーター一覧

コース	主な業種・業界	クラス	受講 生数	氏名	大学	所属等
ビジネス	レジャー・アミューズメント その他	B-1	17	岸 基史	同志社大学	経済学部
	金融・証券・保険	B-2	14	山内 雄気	同志社大学	商学部
	金融・証券・保険 コンサルティング・調査・研究 土業(法律・会計事務所)	B-3	14	山田 廣己	京都産業大学	大学院法務・法学研究科
	マスコミ・広告・印刷・出版 その他	B-4	15	村山 弘太郎	京都外国語大学	外国語学部日本語学科
	マスコミ・広告・印刷・出版 エンタテインメント	B-5	16	濱田 崇嘉	龍谷大学	経営学部
	医療・福祉 教育(学校・大学等)	B-6	10	伊原 千晶	京都学園大学	人文学部心理学科
	教育(学校・大学等) その他	B-7	15	遠藤 敏幸	同志社大学	商学部
	教育(学校・大学等)	B-8	14	坂本 雅則	龍谷大学	経営学部
	不動産・建築設計	B-9	14	佐々木 厚司	京都工芸繊維大学	大学院工芸科学研究科
	商社・卸売 その他	B-10	15	◎ 多田 実	同志社大学	政策学部
	製造(食品) 宿泊・レストラン・フードサービス ブライダル	B-11	15	高橋 真	大谷大学	文学部
	宿泊・レストラン・フードサービス	B-12	16	江口 聡	京都女子大学	現代社会学部
	製造(電気機械設備) 製造(半導体・精密機器)	B-13	13	川上 竜樹	龍谷大学	理工学部
	安全・メンテナンス・清掃 製造(建設) 製造(その他)	B-14	14	○ 三浦 潔	京都文教大学	総合社会学部
	製造(アパレル・繊維) 小売・販売・専門店	B-15	13	高野 拓樹	京都光華女子大学・ 京都光華女子大学短期大学部	キャリア形成学部
	小売・販売・専門店 その他	B-16	13	太田原 準	同志社大学	商学部
	ソフトウェア・通信 人材ビジネス その他	B-17	17	桜沢 隆哉	京都女子大学	法学部
パブリック	官公庁(地方公共団体) 非営利組織(NPO・NGO)	P-1	17	◎ 古川 秀夫	龍谷大学	国際学部
	官公庁(地方公共団体) 非営利組織(NPO・NGO) その他	P-2	15	李 為	京都産業大学	経営学部
	官公庁(地方公共団体)	P-3	11	松村 千鶴	京都府立大学	教養教育センター
	官公庁(地方公共団体)	P-4	13	田中 幹大	立命館大学	経営学部
	官公庁(地方公共団体)	P-5	14	黒宮 一太	京都文教大学	総合社会学部
	官公庁(地方公共団体)	P-6	15	○ 河村 律子	立命館大学	国際関係学部
	官公庁(地方公共団体)	P-7	11	三浦 誉史加	大谷大学	文学部

◎:総合コーディネーター ○:チーフコーディネーター

資料8. 受講生意識調査集計結果

就職に対する意識や自己理解に関する質問項目を設定し、実習若しくはプロジェクト実施の前後に同じ質問に回答する形式の調査を行い、インターンシップが与える影響についての考察を加えた。

社会人として仕事をするうえでの知識や心構えに関わる「就職レディネス」、自己管理能力の感覚に関わる「有能感」、自らの社会における立場をわかまえているかについて知る「自己主体性」の3つの要素を測定するため、30項目の指標を用いた(表-1)。

また、各質問についてはそれぞれ「非常に当てはまる」を6点、「かなり当てはまる」を5点、「やや当てはまる」を4点、「やや当てはまらない」を3点、「かなり当てはまらない」を2点、「全く当てはまらない」を1点として、平均点を算出し、グラフ化して比較した(表-2)。

1.実施日

ビジネスコース・パブリックコース
プログレスコース

2017年6月17日(土)／2017年9月23日(土)
2017年6月15日(木)／2017年10月26日(木)

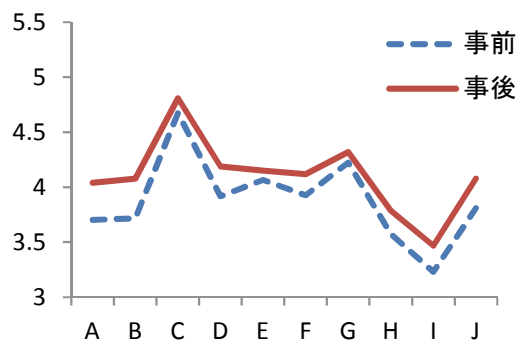
2.回答数

	実習許可 者数	事前		事後	
		回答数	回答率	回答数	回答率
ビジネスコース	245	337	98.8%	323	94.7%
パブリックコース	96				
プログレスコース	37	34	91.9%	31	83.8%
合 計	378	371	98.1%	354	93.7%

表-2. 意識調査結果(比較)

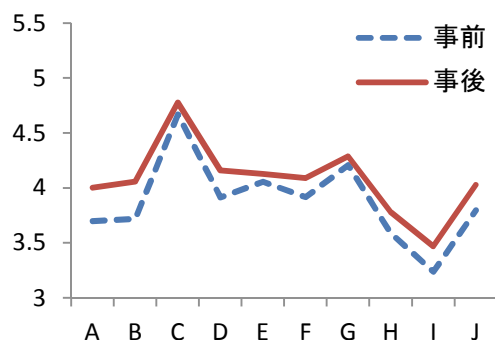
<全体>

全体的に長期間のプロジェクトを実行するプログレスコースでの変化が大きい結果となったが、両コースともに「就職レディネス」に関する項目の変化が大きく、インターンシップに参加することで社会人になる心構えに変化が生じることがわかる。



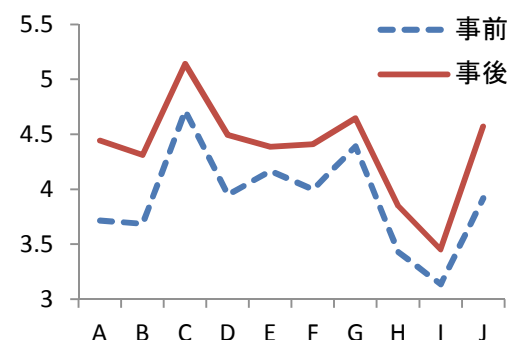
<ビジネスコース・パブリックコース>

全体的に事後調査が事前調査を上回る結果となった。「就職レディネス」の項目の変化が大きく、実際の仕事の体験を通じた社会人との関わりが大きな変化をもたらしていると考えられる。



<プログレスコース>

全体的に事後調査が事前調査を上回る結果となった。「就職レディネス」の項目に関する変化、及び「自己主体性」に関する項目の中でのJ「自己理解」の変化が大きく、様々な職業、社会人との関わりながら長期間のプロジェクトを実行する過程が変化をもたらしたと考えることができる。



資料8. 受講生意識調査集計結果
表-1. 意識調査の指標と平均点

		実習前				実習後			
		ビジネス・パブリック		プログレス		ビジネス・パブリック		プログレス	
		平均	全体	平均	全体	平均	全体	平均	全体
就業意識	A 職場の人間関係への理解	4.18 3.56 3.36	4.18 3.56 3.37	4.18 3.53 3.44	4.18 3.72 3.70	4.34 3.85 3.81	4.37 3.91 3.84	4.68 4.52 4.13	4.37 3.91 3.84
	B 組織で働くことへの理解	4.16 3.65 3.35	4.16 3.65 3.34	4.24 3.59 3.24	4.16 3.72 3.72	4.25 4.04 3.88	4.27 4.06 3.91	4.48 4.26 4.19	4.27 4.06 3.91
	C 学生と社会人の区別	4.85 4.03 5.14	4.84 4.02 5.17	4.74 3.94 5.47	4.84 4.67 5.17	4.80 4.44 5.09	4.84 4.46 5.12	5.32 4.65 5.45	4.84 4.46 5.12
	D ジェンダー問題への気づき	3.51 4.26 3.98	3.50 4.26 3.99	3.44 4.26 4.15	3.50 4.26 3.99	4.07 4.35 4.06	4.09 4.39 4.09	4.23 4.81 4.45	4.09 4.39 4.09
	E 実行力	4.07 4.42 3.68	4.08 4.43 3.69	4.21 4.50 3.79	4.07 4.43 3.69	4.10 4.41 3.88	4.11 4.43 3.91	4.26 4.65 4.26	4.11 4.43 3.91
有能感	F 環境適応力	3.85 3.99 3.92	3.83 4.01 3.93	3.71 4.21 4.09	3.83 4.01 3.93	4.01 4.11 4.15	4.03 4.13 4.19	4.23 4.35 4.65	4.03 4.13 4.19
	G 柔軟な物事の見方	4.04 3.95 4.64	4.06 3.95 4.67	4.21 3.97 5.00	4.06 3.95 4.67	4.12 4.09 4.65	4.15 4.11 4.69	4.52 4.32 5.10	4.15 4.11 4.69
	H 生活規律	3.54 3.91 3.32	3.53 3.89 3.31	3.44 3.65 3.21	3.53 3.89 3.31	3.43 4.15 3.77	3.44 4.13 3.80	3.52 3.97 4.06	3.44 4.13 3.80
自己主体性	I 社会へのコミットメント	3.46 2.66 3.60	3.46 2.65 3.58	3.47 2.56 3.38	3.46 2.65 3.58	3.64 2.86 3.90	3.65 2.84 3.91	3.68 2.68 4.00	3.65 2.84 3.91
	J 自己理解	4.13 3.84 3.43	4.13 3.85 3.45	4.12 4.00 3.65	4.13 3.85 3.45	4.38 4.14 3.57	4.43 4.17 3.63	4.87 4.55 4.29	4.43 4.17 3.63

2017 年度インターンシップ・プログラム実施報告書

発行日 2017 年 12 月

発行・編集 公益財団法人 大学コンソーシアム京都
教育事業部 インターンシップ事業推進室

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都内

TEL: (075) 353-9106 FAX (075) 353-9101

<http://www.consortium.or.jp>
